

平成22(2009)年 3月16日 文教市民委員会

No.53 灰垣委員

多くの項目にわたりますので、できるだけまとめて質問させていただきたいと思います。まず最初に、今、お話もありました全国学力・学習状況調査ですけれども、本市教育委員会が昨年の10月にまとめられたこの結果分析と改善方策を一通り目を通させていただいたんですけれども、これに対しての成果と課題を改めてお聞きいたします。

次に、放課後学習室ですが、平成21年度から全校的にはスタートしたと思うんですけれども、どのような成果があったか、お願いします。

それから、授業改善事業は平成21年度からだと思うんですが、3年間の事業ということで、1年目がもうすぐ経過しますけれども、どのような成果があったのか、この3つを第1問といたします。

No.54 久保学校教育室参事

全国学力・学習状況調査をもとにした成果と課題について、お答えをいたします。

教科に関する結果については、小学校の国語、算数、中学校の数学が全国平均を上回っておりまして、全国との比較でも年々上昇する傾向がございます。中学校国語にはなお課題が残るものの、活用に関するB問題では改善の傾向が見られました。本市の学力向上の状況については、一定の成果が上がっているものというふうに考えております。

少人数指導員等の配置、指導改善の取り組み、2学期制等に積極的に取り組んできたことが、こういった成果につながっているものというふうに考えております。

また、児童生徒質問紙調査の結果からは、肯定的な回答が全国を下回る傾向が依然として続いておりますが、子どもたちの生活習慣や学習習慣などが改善する傾向が見られました。学校・園のみならず、家庭、地域の皆様のご理解とご協力も得ながら取り組んできたことが成果につながっているものと考えております。

今後、子どもたちが目的を持って意欲的に学習すること、家庭学習を含めて放課後や休日に自分から進んで学習することなどの課題について、引き続き取り組んでまいります。

次に、放課後学習室の成果についてですが、まず、家庭学習の習慣に改善の傾向が見られました。先ほどの全国調査の結果からも、家で学校の予習をしていますか、家で学校の復習をしていますかといった問いについて、肯定的な回答が増加をしております。また、放課後学習室で学習支援アドバイザーに個別に教えてもらい、みずからのつまずきを克服して喜びを感じたことなどが成果としてあるというふうに受けとめております。

No.55 野呂瀬教育センター主幹

お尋ねの、授業改善推進事業にかかわってでございますが、全国学力・学習状況調査から、活用する力の育成を課題としてとらえ、活用力育成のための授業改善推進事業を進めてまいりました。今年度は、まず小学校の国語そして算数、中学校の国、数、英のワーキンググループを発足させまして、習ったことを活用する力の定義と授業のあり方について冊子にまとめ、各校に配布いたしました。そして、各教科2本ずつ計10本のモデル提案授業ビデオを作成し、それを使いまして教員研修を同時に実施して、普及に努めてまいりました。また、授業改善推進モデル校を小、中2校ずつ、計4校委嘱しまして、ワーキンググループとも連携いたしまして、研究に努めております。

以上でございます。

No.56 灰垣委員

全国学力・学習状況調査ですけれども、これ、一昨年の平成19年に復活をしているんです、43年ぶりに復活と。なぜ復活したのかということが重要だと思うんですけれども、国際学力実態調査、OECDの中での調査がありました。非常に学力の低下が表面化したということが大きな原因となって——今回、この学力調査、学テと言われる——43年ぶりに復活したということですから、これは国の問題ではありますけれども、3年間続けた、悉皆というんですか、全員調査の形にぜひ戻るべきであるというふうに私は思っております。

これが全員参加方式に対しては——これは新聞の社説ですけれども、民主党の有力支持団体、日本教職員組合が、自治体、学校の競争や序列化をあおると批判してきたと。全員参加方式中止の本当のねらいは、競争そのものを避けることにあるのではないかというような、こういう記事があります。競争の否定は学力テストの効用を軽視するものだという事で、一理あるんじゃないかなと私は思っています。

豊中市教育委員会が全校参加決定ということで、数日前の新聞にも載っていましたが、もともと私がお聞きするところによると、この豊中市教委というのは、もともと抽出方式をという方向で進んでいらっしやったようですけれども、全国的な流れを見て、やはり全校参加を決定しようということをされたというふうな、こういったことも聞いています。

今回、抽出方式の中で、市独自で数校抽出を改めてして分析をされるということですが、その分析をする基準がもともと全国と違うということもありますけれども、せっかく積み重ねてきたことをしっかり生かしていただいて、このことをやっていただきたいと思っています。

それから、学テの効果として、これも新聞記事ですけれども、成果が振るわなかった沖縄県は、毎年上位の秋田県と教員の交流を始めた。また、大阪府では教育振興基金を創設して、来年度予算案でも、成績が中下位だった6割近くの中学校に、学力向上担当教員

を配置できるよう予算を計上していると。こういうことに水を差しかねないというふうに書かれています。高槻市は今どの位置にいてるんだろうということは、やはりこの悉皆の調査でわかるというふうに思っています。

それから、この全国学力テストの中で、先ほどのご答弁の中に、生徒質問紙調査の結果というお話をされていましたが、この結果の60ページ以降がその調査になると思うんですが、非常に重要な、例えば基本的な生活習慣と家庭のコミュニケーションとかいう項目があったり、毎日何時に起きてますかとか、朝食はどうですかといういろんなことが調査されている。これもしっかりと重視した、成績だけじゃなくて、こういうことを重視したような調査方法というの、今後、検討していただきたいということを要望しておきます。

それから、2つ目の、放課後学習室の効果のようなものを先ほどおっしゃってました。確かに、そういうことはあるんだろうと思うんですけど、そういうことを当の児童生徒から、もしくは保護者から、その感想をお聞きするようなことも必要じゃないかなと思うんですけど、どのようにそういったご意見を吸い上げていらっしゃるかを2問目でお聞きします。

それから、授業改善の件ですけれども、今お話をお聞きしました。ワーキンググループ、これは小学校の国語、算数、中学校国語、数学、英語と、5つのワーキンググループをつくるというふうにお聞きしています。そこに、先ほどモデル校、如是中学や冠中学、北清水小学校や西大冠小学校ですか、そういった実際に携わっている人がそのワーキンググループに入って、1人の指導主事の方が入って、大学教授が所見をするというような、こういった非常に前向きな勢いを感じる、熱意を感じるような形でやっていたらというふうに思うんですけども、3年の事業ですが、次、この2年間どのようにされるのか。その期待している効果についてお聞かせください。

以上です。

No.57 久保学校教育室参事

放課後学習室に対する児童生徒や保護者の意見ですけれども、児童生徒からは、苦手な算数が好きになった、わからないところを聞きやすい、勉強の仕方がわかってうれしいなどの声が上がっております。また、保護者からは、自分から学習に向かうようになったなど、評価する声が上がっています。このような意見は、その場で直接、学習支援アドバイザーや教員が児童生徒の声を聞くだけでなく、アンケートを実施している学校もございます。保護者については、担任による聞き取りを行いまして、児童生徒や保護者の声を丁寧に把握するように努めております。

No.58 野呂瀬教育センター主幹

授業改善推進事業にかかわってお答えいたします。

習った知識等を活用して思考し、判断し、表現する力を育成するためには、国語科だけにとどまらず、他の教科等においても言語活動を充実させていく必要があると考えております。

具体には、まずワーキンググループによるモデル提案授業のビデオを3年間で合計30本を作成し、あわせて教員研修を実施いたします。また、各校においては、習ったことを活用する力を育成するための授業づくりを進めることになっております。これら各校における研究は、思考力、判断力、表現力の育成に効果が期待されるだけでなく、各中学校区におきます9年間を見通したカリキュラムづくりにもつながるものと考えております。

以上でございます。

No.59 灰垣委員

放課後学習室ですけれども、学校によってはアンケートを出されているということで、実態をまずしっかり調査しながら、その成果をさらに生かしていくような取り組みをする必要があると思うんです。こういったアンケートをとっていらっしゃる学校の実例を、とっていらっしゃらないようなところに広げていくことも大事かなと思いますので、よろしく願いしておきます。

それから、授業改善の中でご答弁がありました言語活動を充実させていく、言語活動とは何でしょうかということになるんでしょうけれども、いろいろお話をお聞きし、広辞苑等も引きますと、思考力、判断力、表現力等を学ぶと、そして、書く、で、考える。それをまた今度は人に説明する、そういう中で力をつけていく。考える力、活用する力をつけていくというようなことになるのかなというふうに判断をしましたがけれども、今回、先ほどありました教育力向上プログラム事業、ラーニングSプロジェクトということですがけれども、本会議でもいろんなご意見がありました。非常に厳しい、そして先ほどもございました、一貫教育ということで、私はどちらかということ、例えば、2学期制にしても現場の声というのは厳しいものがあつたというふうに私は聞いていますし、それも事実だと思います。そして、今、少人数授業等も、いろんな授業を高槻市教育委員会はやっている。その熱意といいますか、その思いに対して、私は本当に敬意を表したいというふうに思っております。

この6・3制を4・3・2という、その基本を持ちながらということですがけれども、想定されるのは、まず横の連携というのと縦の連続というのがありますけれども、横の連携というのは今までもあつたことですがけれども、さらに深めていこうということで、保護者、地域の住民、大学、企業、研究団体、こういった人たちの協力を得ると。しっかり社会の参画意識の学習意欲の向上につながるというふうに考えられますし、また小中一貫ということに関しましては、先ほど段差というものがありました。やはり不登校という、またい

じめと、我々もそういう人たちとも接していますし、その段差解消ということに関しましては、やっぱり4年生ぐらいからそういう傾向が出てきますし、中学に上がるときには190何人の不登校の方がいらっしゃるというふうに昨年おっしゃってましたけども、やはり一番段差の高いところですから、そこをスムーズにしながら、基本的には学習意欲を高めていくということに対して、期待ができるというふうに私は思っておりますので、先ほどお話がありました現場の先生たちが、実際に実行する先生たちが気持ちよくこのことに取り組めるようなことをやるのが教育委員会の仕事だと思いますので、この辺を要望しておきます。

どこまでいっても、目的は子どもの幸福というのが教育の目的だというふうに思いますので、そこをたがわないように、この事業等をしっかり推進していただきたいことをお願いしておきます。

それから、続きまして、学校図書館支援員の2年目を迎えていますけれども、成果をお聞きします。

それから、これもまとめてお聞きしますが、「まちごと子ども図書館」と学校図書館の連携はどのようにされるのかをお聞きします。

以上です。